まちづくり・生涯学習情報誌

らしっく

自分らしく、粋なくらし

Vol.54
青芝号
2019.7

あおしば／夏になって一面に青々と伸び育ってきた芝をいう。芝刈、水撒きなど手入れの行き届いた夏芝は、緑の絨毯ように美しい。

CLOSE UP

自然と向き合い、災害へ備える

NPO法人ひろしま自然学校
「森を育む 人を育む 森で遊ぶ」
自然の良い所だけではなく、自然の持つ脅威も伝える

NPO法人ひろしま人と樹の会
「森を育てる」「人を育てる」「ボランティア精神を育てる」
自然と共存し災害に強い地域づくりの一助を担う

認定NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽん
子ども、障害のある人、地域の人が
共につながるまちを目指して長年活動

連載

▶らしっくレポート 被災後、復旧のカギは人 ～住民・ボランティア・企業・行政～
▶らしっくコラム・災害に強い、たおやかな社会へ ▶ようこそ！公民館へ～安芸区内公民館～
▶人材バンク 名人 宝人 達人 ▶Hm²助成団体決定！ ▶Hm²助成支援団体のご紹介 ▶情報の森 ▶プラザ通信

「森を育む 人を育む 森で遊ぶ」自然の良い所だけではなく、自然の持つ脅威も伝える

夏の分校 $\frac{1}{2}$ヶ月の様子

CLOSE UP

自然と向き合い、災害へ備える

広島市でも甚大な被害があった平成30年7月豪雨災害から一年。災害と日常は隣り合わせ、自然災害はいつ起きるかわかりません。日頃から自然と向き合い、活動している団体を紹介します。

NPO法人ひろしま自然学校

http://moricafe.sakura.ne.jp/htdocs/

年間を通して楽しめるさまざまなプログラム

「森を育む 人を育む 森で遊ぶ」をテーマに、里山整備や人材育成、環境教育・自然体験活動を実践し活動しているのが、「NPO法人ひろしま自然学校」です。

「もともとは、代表理事の志賀誠治（しがせいじ）が平成2年頃から環境分野の活動に取り組んでいたのですが、次第にその活動が広がり、多様な人が関わるようになったことから、NPO法人を立ち上げました。主な活動の場は山県郡北広島町の10ヘクタールの森「ろうきん森の学校」です。労働金庫連合会の社会貢献活動として平成17年に開校し「NPO法人ひろしま自然学校」が委託運営しています」と研究員の花村育海（はなむらいくみ）さん。

▲ 研究員の花村育海さん

ろうきん森の学校を活動拠点にして、毎年夏には小中学生を対象に、夏休みの2週間を共同生活する長期キャンプ「夏の分校 $\frac{1}{2}$ヶ月」、秋にはカヌー、ツリークライミング、木工クラフトなどの自然体験や森のコンサートなど、1日里山でゆったり楽しく過ごせる「森の学校フェスティバル」を開催。そのほか四季の山菜の収穫や料理を通してお腹も心も満たされる「森カフェ」や、小麦の植え付けから収穫、パン焼きまで行う「小麦プロジェクト」などの自然体験、里山の生活体験も実施。また毎週木曜日にボランティアが植林や育樹、間伐、草刈、林道整備、樹木の名札かけ、鳥の巣箱作りなどの森の整備を続けていることで、地域の森林の持つ多面的機能を取り戻しています。

▲ 小麦プロジェクト

日頃の経験を活かし災害時に活動

日頃は、豊かな森の再生や環境教育活動に取り組んでいる皆さんも、平成30年7月に発生した豪雨災害では、広島市安佐北区でボランティア活動に携わりました。

▲ 三田地区ボランティアセンター運営サポートの様子（平成30年7月）

「安佐北区は、平成26年の豪雨災害の経験もあり、区災害ボランティアセンターが立ちあがるよりも先に、各地区が自発的にボランティアセンターを立ち上げて、地域の住民同士が助け合って活動していました。しかし昨年の災害は、被災場所が広範囲に点在していたこともあり、当初はボランティアが集まりにくい状況でした。そこで私たちも独自に週末ごとに土砂掻きをするボランティアを募集し、日頃からNPO法人ひろしま自然学校の活動に協力をしていただいている方々を中心に、7月に約90人のボランティアを派遣しました」と花村さん。

また「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」に加盟していることもあり、志賀さんは区災害ボランティアセンターの運営支援を、花村さんは地元の安佐北区白木町三田地区のボランティアセンターの運営をサポートしたそうです。各地区では、その後も今回の経験を活かし、状況に応じたマニュアル作りや対策をしているそうです。

このような災害時に迅速な活動ができるのも、日頃から自然と関わっている団体ならではの利点と言えるかもしれません。

また、昨年の災害経験を踏まえて、災害発生から人命救助においてひとつの目安となる48時間の中で、いかに対処していくのかを実体験する防災キャンプの実施を計画しています。

「いつ起きるか予測がつかない自然災害と、どう向き合っていくのか。今回、地域の方々の日頃の関係から生まれる「地域力」を感じました。私たちが自然と関わる中で、日頃から自然と、地域と、人としっかり向き合うことが改めて大切なことだと、昨年の災害を通して再認識しました。そのために、私たちは、里山整備の重要性を伝えるとともに、自然の持つ脅威や自分たちの身を守るための関係性の紡ぎ直しについても研究して、発信していきたいですね」と花村さんは話してくれました。

常に自然と向き合い、そして受入れる寛容さを持ち合わせ、自然との懸け橋となっている皆さんの活動に今後も期待します。

▲ ボランティアによる土砂掻きの様子（平成30年7月）

らしっく
自分らしく、粋なくらし
Vol.54
青芝号
2019.7

contents

01 特集
自然と向き合い、災害へ備える
▶NPO法人ひろしま自然学校

森の学校フェスティバルの様子

▶NPO法人ひろしま人と樹の会

竹林整備の様子

▶認定NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽん

口田地区ボランティアセンター支援の様子

05 らしっくレポート ひろ記者が行く
▶被災後、復旧のカギは人
～住民・ボランティア・企業・行政～

らしっくコラム
▶災害に強い、たおやかな社会へ
広島大学大学院国際協力研究科 教授
藤原 章正

06 ようこそ！公民館へ
▶安芸区内公民館

07 人材バンク　名人 宝人 達人
▶坂井 紀予さん
▶桝本 純子さん

09 Hm²助成団体決定！

10 Hm²助成支援団体のご紹介
▶特定非営利活動法人ワーカーズコープ広島支部
木こり屋 Bun Bun Baum
▶弘億団地自主防災会

11 情報の森

15 プラザ通信

※掲載している各団体への問い合わせは発行者である（公財）広島市文化財団まちづくり市民交流プラザまでお願いします。☎082-545-3911

「森を育てる」「人を育てる」「ボランティア精神を育てる」自然と共存し災害に強い地域づくりの一助を担う

NPO法人ひろしま人と樹の会

広島の森林を守り、育てる活動

平成4年、森林保全活動を目的に森林ボランティア団体を結成、その後、法人化したのが「NPO法人ひろしま人と樹の会」です。

前身となる森林ボランティア団体では、平成7年に広島県立中央森林公園（三原市）で開催された「第46回全国植樹祭」にもサポートとして運営に携ります。「会場整備を行うため、会場周辺と県内各地を調査したところ、マツクイ虫の影響で松枯れ被害が数多く発生し景観も損ねており、早急な対策が求められていました。そこで、公務員や会社員、主婦など幅広い層の約200人が森林整備のために集まりました」と語るのは、事務局長の櫻井充弘さん。

無事に全国植樹祭開催のサポートを終えた後も、県内各地の森林ボランティアの活動に取り組み、平成25年には多様化する社会のニーズに応えるためにもNPO法人化。現在は月に2～3回、県内各地の森林の間伐・枝打ち・草刈りなどの保全活動、炭焼き、自然道整備、自然観察会、シイタケ作り、里山管理などさまざまなボランティア活動を行っています。

災害を通して感じた、森づくりの在り方

普段から積極的に森林保全活動をしている皆さんは、平成30年7月の豪雨災害時には、これまでの活動で培った助け合い精神を発揮させ、土砂の撤去や食事作り、避難所の寝泊りする場所を区分けする木製パネルの組み立てを手伝うなど、会員個人が持っている技能を使いボランティア活動を行ったそうです。

会員の沖田泰夫さんは、災害ボランティアとして長期間にわたり支援活動を継続している功績が認められ、社会奉仕団体から表彰されています。沖田さんは重機の操作や修理ができることから、昨年の被災地では家屋の修繕や土砂を撤去、さらにはチェーンソーを使って倒れた木の伐採もしたそうです。「沖田さんは、これまでも全国の地震や豪雨災害の被災地で、自動車整備工や大工をしていた経験を活かして、ボランティア活動に取り組んでいました。また昨年の災害でもボランティア経験を活かし、ボランティアセンターの立ち上げや運営のノウハウを提供するなど、さまざまな活動をしていました」と櫻井さんは話してくれました。

▲ 平成29年7月に表彰された沖田泰夫さん

▲ 事務局長の櫻井充弘さん

昨年の災害は、川や道路に森林からの木や土砂が流出して被害を大きくし、自然の大きな脅威、日頃の森林保全活動の大切さを改めて実感。また災害が起きた際には悲観するだけではなく、その後どのように助け合い、何をしないといけないのかについて考えさせられたと言います。

▲ ヒノキの枝打ちの様子

「今後はこれまでの活動に加えて、放置された森林をなくして災害が起きにくい健全な森林を増やし、より多くの人に森林の大切さに気付いてもらうことが課題だと考えています」と櫻井さん。

いつ起きるか分からない災害と隣り合わせの中で自然と共存し、いかにして豊かな森林を守っていくのか、皆さんの高い意識と活動に大きな期待が寄せられます。

▲「山の日」記念植樹祭の様子（平成29年8月もみのき森林公園小室井山）

子ども、障害のある人、地域の人が共につながるまちを目指して長年活動

認定NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽん

https://www.hullpong.jp/

子どもの発達支援、障害者支援、ボランティア育成などさまざまな活動に取り組む

昭和56年7月に、障害を持つ子どもたちのいきいきとした生活と、社会参加を支援したいという強い思いから結成された「コミュニティリーダーひゅーるぽん」。こども発達支援センターとして、障害のある子どもや、学校に通うのが難しい子どもの支援や相談を中心に活動しています。

平成7年の阪神・淡路大震災では、発生直後に現地へボランティア活動に入ったことをきっかけに、その後は災害・防災ボランティア活動にも積極的に取り組むようになります。平成23年の東日本大震災から「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」のメンバーとして活動し、平成26年の豪雨災害時は事務所のある広島市安佐南区を中心にボランティア活動を行いました。長年の公共性の高い活動が認められ、平成30年3月には一定の基準を満たした団体として認定NPO法人に。現在は、ボランティア活動希望者と現地のニーズを調整するボランティアコーディネーターとしての役割も果たしています。

地域の思いを大切にし専門職としての強みを発揮

平成30年7月の豪雨災害時には、まずひゅーるぽんに通う障害のある人たちの安全を確認。翌日には、理事長の川口隆司さんとスタッフで社会福祉士の小林亜希子さんが広島市安佐北区の被災地に行き、対応を検討しました。

「驚いたのは、まだボランティアセンターが立ちあがっていないにも関わらず、中学生や高校生が長靴を履き、手にはスコップを持って被災地に向かっていたんです。平成26年のボランティア活動の記憶が彼らにもちゃんと継承されていたんですね。私たちも大変勇気づけられ、この思いは、地域の皆さんが自発的に立ち上げた口田地区ボランティアセンターへの支援へと繋がっていきました」と川口さんは語ります。

▲ 口田地区ボランティアセンターで活動する皆さん

▲ こども発達支援センターの様子

スタッフで保健師の飯田宏美さんは災害で看護師が不足していたため全国各地で活動する訪問ボランティアナースの会「キャンナス」へ要請。熊本から看護師を派遣してもらい、一緒にボランティアセンターで活動しました。「避難所やボランティアセンターでの看護師の活動は、衛生管理や救護など役割は大きいと感じました。またボランティアや被災された方からも看護師がいることは心強いという声も聞きました」。飯田さんは、ボランティア現場での専門職の必要性について話してくれました。

また被災された方が、お子さんの困りごとの相談を無料で安心してできる体制を整え、社会福祉士、保育士、保健師などの専門職が相談を受けました。

「住民が主体となって活動を始めた、口田地区ボランティアセンターの運営支援では、地域の思いを大切にし、専門職としての視点で、行政や各専門機関とを結ぶ役割が重要であり、日頃から地域とのつながりが大切だと感じました。さらに、障害などの理由から、慣れない場所に抵抗があり避難所へ行くのが難しい場合もあります。こうしたことも、地域住民がお互い知っておくことができればいいなとも感じました」と小林さんと飯田さん。

日常からは予測できない自然災害が起きた時こそ、地域のつながりの重要性を実感します。皆さんのように日頃から地域で活動することの大切さを感じました。

▲ ボランティア作業の様子（平成30年7月）